

◆養液栽培における高温性水媒伝染病害の安全性診断マニュアルの策定 (2011～2013年度)

共同研究機関: 岐阜大学流域圏科学研究センター(中核機関)、愛知県農業総合試験場、岐阜県農業技術センター、三重県農業研究所、静岡県農林技術研究所
普及支援;愛知県農業総合試験場広域指導グループ

研究概要: 近年、地球温暖化の影響による新たな病害が増加している。特に、養液栽培で多発している高温性水媒伝染病害は、病原菌が施設全体に急速に蔓延するため、発病してからの防除対策では遅すぎる。被害軽減には早期診断が重要である。
本研究では、高温性水媒伝染病害の簡易診断法を開発し、施設内外の汚染度調査および養液中の病原菌モニタリングと被害予測による安全性診断の評価法を確立する。これに既存の殺菌処理を組合せた安全性診断マニュアルを作成する。
本研究により、養液栽培による安全・安心な農産物を提供するとともに、生産の安定により、低価格な農産物を安定的に供給することができる。



課題提案者の感想: 産学官連携コーディネーターの支援に対して



岐阜大学
景山 教授

今回は二度目の挑戦でした。当大学の産官学融合センターから本コーディネーター支援を紹介頂き、**懇切な助言と支援を頂きました。**
自分自身、今回こそはと思いながらも、前回の反省点をどのようにして申請書に反映していけばいいのか悩んでいましたが、**共同研究機関の役割分担の明確化、研究成果の形と普及についての分かりやすい記載など有益な助言と激励**を頂き、自信をもって申請することができました。また、一次審査後の**面接におけるプレゼン資料についても農政の施策に沿った的確な助言**を頂き、短い時間に効率よく自分たちのアピールしたいことを表現することができました。採択され大変感謝しております。